

## 景観資源の位置と解説

## A. 東部丘陵周辺

---

この地域は、市街地から眺めると美しい三角形の姿をした石巻山のある弓張山地と、そのふもとに広がる柿畑などの田園により形成されています。

地域の中には、葦毛湿原やイヌツゲ群生林などの貴重な自然景観が点在するとともに、馬越長火塚古墳をはじめとする古墳群や城址などの史跡、普門寺などの社寺も数多く存在し、歴史の趣きのある里山の景観をつくりだしています。



里山のふもとに広がる田園と落ち着いた集落（岩崎町）



いしまきさん

## ■ 石巻山

標高 358mのシンボリックな山で、その象徴的な姿により、古くから信仰の対象とされてきた。麓には石巻神社本社が、中腹には石巻神社山上社があり、山上社では旧正月に、その年の豊作を占う管粥神事が行われ、山は人々の暮らしと深く結びついてきた。山頂付近は石灰岩が露出する特異な地形で、石灰岩地特有の動植物が生息し、国の天然記念物「石巻山石灰岩地植物群落」に指定されている。



いしまきじんじゃ

## ■ 石巻神社（本社・山上社） 石巻町

石巻山の麓の本社（下の宮）と中腹にある山上社（上の宮）の二つがある。創建は孝安天皇の頃とも推古天皇の頃ともいわれる。山上社の現在の堂舎は第二次世界大戦後に建て直された。山麓の本社では「ちまき祭（どぶろく祭）」、山上社では「管粥祭」が行われ、地域の伝統行事になっている。



## ■ イヌツゲ群生林

弓張山地の稜線上にあり、うねるような枝が独特の景観をつくりだしている。イヌツゲの樹高は通常 4~5m 程度であるが、この場所では 7~8m の巨木もある。とよはしの巨木・名木 100 選にも選ばれている貴重な群生林である。



いもうしつげん

## ■ 葦毛湿原 岩崎町

標高 70m 前後のゆるやかな傾斜地に広がる湧水湿地で、三方を山に囲われ、自然に包まれたこちよい景観がある。高山性植物や東海地方特有の湿地植物、ヒメヒカゲやヒメタイコウチなどの希少な昆虫などが数多く生息し、国の天然記念物に指定されている。近年の大規模植生回復作業により、かつての植生を取り戻しつつある。



いわさきひろば  
■ 岩崎広場 岩崎町

葦毛湿原からほど近い場所にある自然に包まれた公園で、東部丘陵の北斜面の山裾にある。入り口を進むと庭園が広がり、梅や桜、モミジなど、四季折々の彩りある景観が楽しめる。庭園の奥には、里山として利用されてきた山林が広がっており、自然観察のための散策路が整備されている。その背後には、深い緑の国有林が広がっている。



いわかんのん  
■ 岩屋観音 大岩町

二川宿の西にある岩屋山の頂に建つ観音像で、その印象的な眺めは、東海道の風物詩として道中記などに取り上げられている。行基が天平2年（730）に岩屋山に観音堂を建立したと伝えられており、聖観音立像は明和2年（1765）に建造された。戦時中に供出されたが、昭和25年に再建され、今も地域のランドマークとして親しまれている。



いわりよくち  
■ 岩屋緑地 大岩町

東部丘陵の南端にある緑地で、標高約100mの大蔵山と岩屋観音が建つ岩屋山のふたつの小山がある。緑地内の雑木林にはネイチャートレイルが整備され、ボランティア団体が市と協働で里山保全活動を行っている。岩屋山は、チャートの岩山で、浅い洞くつなどの変化のある地形を観察することができる。緑地の上空は、タカ類などの渡り鳥のルートになっている。



## う

うちやまがわ  
■ 内山川（ホタル） 岩崎町

東部丘陵の麓を流れる小河川で、里山に包まれた水田地帯を静かに流れている。河川工事などの影響でゲンジボタルが減少しつつあったが、ホタルの舞う懐かしい景観を取り戻そうと、住民を中心に環境改善が行われてきた。近年は、毎年6月ごろになると、黄緑色の小さな光がふわふわと舞う幻想的な景観を見ることができる。



## お

おおくらじんじゃ

### ■ 大蔵神社 石巻中山町

市の北部にある山に囲まれた落ち着いた集落地に、緑に包まれてひっそりと建っている。創建は明らかでないが、明治維新の際に中山村（石巻中山町）の氏神になった。境内には、推定樹齢 300 年以上のイチイガシの大木があり、とよはしの巨木・名木 100 選に選ばれている。所蔵する雨乞面は、市の有形文化財に指定されている。



おおちぼうげはいじあと

### ■ 大知波峠廃寺跡

平安時代中期（10 世紀半ば～11 世紀末）の寺院跡で国の史跡に指定されている。愛知県と静岡県の間境に連なる弓張山地の大知波峠付近（標高約 340～350m）にある。弓張山地の稜線には、豊橋自然歩道の本線が通っており、峠から東側（湖西市側）に少し下ったところに寺院跡の平場がある。浜名湖方面の素晴らしい眺望も楽しめる。



## か

かきばた

### ■ 柿畑

豊橋の北東部は次郎柿の特産地で、弓張山地の麓から豊川に向かうなだらかな丘陵地に、広大な柿畑が広がっている。柿畑は、東部丘陵の山並みや点在する集落とともに、のどかな里地の景観を形成している。春には瑞々しい新緑が丘一面を染め上げ、秋にはつややかな柿の実がたわわに実る。



### ■ カタクリ山（西川城址） 石巻西川町

戦国時代末期に西郷清員(きよかず)が築城したと考えられている西川城の城址のある小山。北斜面がカタクリの群生地になっているためカタクリ山と呼ばれている。カタクリは、地元住民の手で育てられ、早春には淡いピンク色の花が斜面一面に広がる。山の南側にある大福寺の境内には、五色椿と呼ばれるオトメツバキの古木がある。



かみいしやま

### ■ 神石山

愛知県と静岡県の県境に連なる弓張山地にある標高約 325m の山。山の南側には由緒ある普門寺や雲谷町の里地があり、西側には岩崎町の里地が広がっている。山頂まで豊橋自然歩道が通っており、山頂の広場からは、浜名湖方面の景色を眺めることができる。



## き

きちじょうさん

## ■ 吉祥山

豊橋市と新城市の境にある標高 382mの独立峰で、堂々とした山容は、古くから信仰の対象になっている。標高 300m 以上は県の自然環境保全地域に指定されている。麓から登山道が整備されており、豊かな自然が楽しめる。山頂は 360 度の展望が得られ、弓張山地の山並みや遠く南アルプスの山々が眺められ、天候が良いと富士山も見える。



ぎよくせんじのなぎ

## ■ 玉泉寺のナギ 石巻町

市の天然記念物に指定されているナギの大木。幹周 384cm、高さ 15.7m、推定樹齢 500 年以上、枝張りは 17m を越え、円錐形の樹形で、樹勢は今も旺盛である。玉泉寺は、嘉慶元年（1387 年）に死去した慈雲座元の開創によるもので、樹齢もほぼこれに相当すると推定される。



## く

くらかげじんじゃ

## ■ 鞍掛神社 岩崎町

里山に近い水田地帯にあり、社殿は鎮守の森のなかに静かに建っている。社伝によると米山大明神または鞍馬大明神と称して近くの米山に祀られていたが、文治 4 年（1188）に現在地に移ったものである。源頼朝が京へ上る途中に鞍を奉納して武運長久を祈願したことから、鞍掛神社と名を改めたと言われている。



## こ

ごうどう たき

## ■ 郷道の滝 石巻西川町

柿畑が広がる丘陵地を流れる郷道川にある滝。滝の周辺は、郷道の滝公園として整備され、緑に包まれた静かな環境がある。巨岩の上から落差 4 mほどの滝が流れ落ちており、散策路で滝の下の沢まで降りることができる。近くにはカタクリ山がある。



ごほんまつじょうし

### ■ 五本松城址 石巻中山町

豊橋の北部方面で勢力を誇った西郷氏の本城の城址である。西郷氏は石巻中山地区を中心に城砦群を築いたが、この城は唯一平地部にあり、規模は150m×150m程度とされる。現在遺構はなく、山に囲まれたのどかな里地に、城址を示す標柱がひっそりと建っている。



こまど さくら

### ■ 駒止めの桜 岩崎町

建久元年（1190）、源頼朝が鎌倉街道を通り京の都にのぼるとき、小川のほとりにあった桜の大木に馬をつないだとされるのが駒止めの桜で、鞍掛神社の東100m程のところにある。今は水田地帯を背景に石碑があり、周辺には桜の並木が植えられている。



ごんげんやまこふんぐん

### ■ 権現山古墳群 石巻本町

通称「権現山」と呼ばれる独立丘陵（標高68m）の尾根上にある2基の前方後円墳で、県の史跡に指定されている。1号墳は、全長38m、2号墳は全長33mある。今は森になっているが、かつては古墳から豊川下流域を広く望むことができたようで、葬られた人々は、豊川下流域を支配した古墳時代前期の有力首長だったと考えられる。



## し

しょうじゅうじ

### ■ 正宗寺 嵩山町

嵩山の地名の由来となった寺院で、鎌倉時代の永仁年間（1293年～1299年）の創立といわれる。三方を山に囲まれた南向きの谷にあり、参道には巨木が並び、境内は深い森に包まれている。鐘楼・本堂・客殿・庫裏が建ち、東三河でも指折りの巨刹で、国の重要文化財になっている「旧方丈の壁画四五幅」をはじめ多くの文化財を所蔵している。



しらしいせき

### ■ 白石遺跡 石巻本町

弥生時代前期の環濠集落の遺跡。豊川とその支流である神田川にはさまれた台地上の端に位置し、眼下には水田が広がっている。低地の水田側から見ると、河岸段丘崖の緑の縁取りの中に埋もれて見える。弥生時代前期の遠賀川土器の出土で知られるが、縄文時代の遺物も数多く採集されている。



しらつちしゃ  
■ **白土社** 嵩山町

創建は嘉暦年間（1326～28）と伝えられ、嵩山村の産土神である。嵩山町の山裾にひっそりと建ち、境内には芝居小屋が残っている。鰐口が市の有形文化財に指定されている。



しんいけ  
■ **新池** 石巻町

石巻山の北側にある神秘的な雰囲気のため池。三方を山に囲われ、周辺の緑が池に覆いかぶさるように生い茂り、鏡のような水面に緑が映り込んで見える。空気が澄んだ静かなときには、山からこだまが返ってくる。



## す

すぎもとはちまんしゃ  
■ **相本八幡社（綱火）** 石巻本町

豊川の河岸段丘上の鬱蒼としたスギ林のなかにひっそりとたたずむ神社。鳥居をくぐり石段を上がると広い境内が現れ、緑に包まれて社殿が建っている。毎年10月に豊年祭りが行われ、綱火や手筒花火が奉納される。花火が水平に走る綱火は市の無形民俗文化財に指定されている。



すせいちりづか  
■ **嵩山一里塚（西塚）** 嵩山町

江戸日本橋から数えて73番目の一里塚で、東海道の見附宿（磐田市）と御油宿（豊川市）を結ぶ本坂道（姫街道）の途中にある。県境の本坂峠から麓の嵩山宿に至る山の中腹にあり、直径約10m、高さ約2mの塚が山道の両側にあり、当時の状態を保っている。市の史跡に指定されている。



すせしゆく  
■ **嵩山宿** 嵩山町

東海道の見附宿（磐田市）と御油宿（豊川市）を結ぶ本坂道（姫街道）の宿場町で、弓張山地の麓にある。宝永4年（1707）の地震で、東海道の今切の渡しが通行できなくなると、大いに賑わったという。歴史的なまち並みは残っていないが、のどかな集落の景観が、かつてを偲ばせる。



す せ じゃあな  
■ 高山の蛇穴 高山町

標高 140m ほどの山腹にある洞窟で、入口は高さ 1.3m 程あり、奥に 70m ほどまで入ることができる。縄文時代の洞穴遺跡で、国の史跡に指定されている。約 1 万年前の押型文土器をはじめ、石器や貝などの遺物が発見されている。名前は大蛇が住んでいたという言い伝えからついた。周辺は石灰岩地質で、清水が湧き出る水穴や、バクチノキなどの独特の植生が見られる。



せ

せきがんじ  
■ 赤岩寺 多米町

高野山真言宗の寺院で、行基菩薩が聖武天皇の願いを受けて神亀 3 年（726）に創立した。本尊は阿弥陀如来像で、室町期の仏像である。木造愛染明王坐像が国の重要文化財に指定されており、参道には立派な仁王門がある。山号の赤岩は、山腹にある大岩が赤色をしていることからつけられた。境内のある山は赤岩緑地と風致地区に指定されており、春のヤマザクラや秋の紅葉など、歴史とともに彩りある自然景観が楽しめる。



た

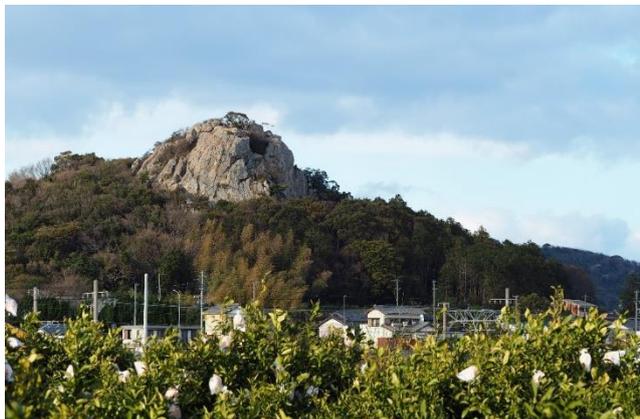
たかいいせき  
■ 高井遺跡 石巻本町

豊川とその支流である神田川にはさまれた台地上にある弥生時代を中心とした遺跡。方形周溝墓と後期の環濠が発見され、多量の土器も出土している。環濠の大きさから、かなり大規模な集落であったと考えられる。



たていわ  
■ 立岩 雲谷町

二川宿の東にある切り立った岩山で、緑の中から巨大なチャートの岩がそびえたち、独特の景観を見せている。遠くからでも見えるため、街道の名所として多くの道中記に取り上げられている。



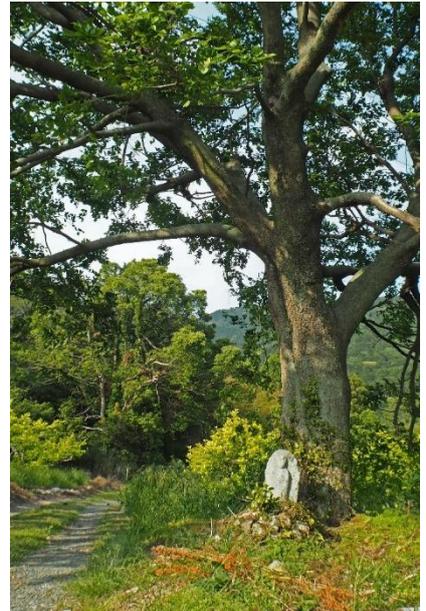
た め と う げ  
 ■ 多米峠 多米町

豊橋市多米東町と湖西市大知波を結ぶ標高 265mの峠。古くから東西を結ぶ街道があり、人馬の往来が盛んであったと言われている。昭和 41 年（1966）に多米トンネルが開通した。トンネルの手前に多米自然歩道の入口があり稜線の豊橋自然歩道本線まで登れる。トンネルの手前には休憩所があり、木々の間から市街地が眺められ、夜景も見られる。



た め ど う そ じ ん  
 ■ 多米の道祖神 多米町

多米峠に至る道と不動滝に至る道が Y の字に分岐するところに 1 本の大きな木が生えており、その根元に道祖神がある。「右えん州、左たき」と刻まれており、かつては、遠州に繋がる峠越えの街道があったことを偲ばせる。周辺は柿畑になっており、近くには滝ノ谷池やビオトープがある。山にやさしく包まれた空間に、1 本の大きな木と、小さな道祖神がある景観は、懐かしい気持ちにさせてくれる。



た め ふ ど う だ き  
 ■ 多米の不動滝 多米町

多米峠の西側の谷にある落差 4 m 程の滝で、緑に覆われた谷筋に滝の音が心地よく響いている。県道から脇に入り山林のなかを少し歩くと朝倉川の源流である沢が現れ、その先に滝が見える。滝の上の堂内には不動明王が祀られ、周辺の岩上にも数体の石仏が祀られている。



## と

とうこうじ  
 ■ 東光寺 石巻町

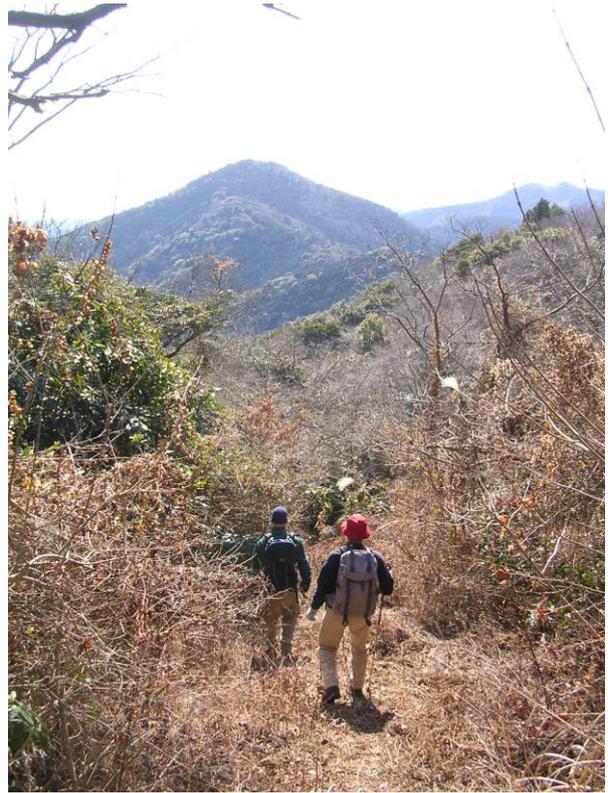
石巻山の北にある臨済宗妙心寺派の寺院で、山号は湯王山、本尊は薬師如来立像である。山に包まれた里地の奥にあり、山門のある苔むした石段を上がると、深い緑の山を背景に本堂が静かに建っている。寺院前には、ひな壇状の里地があり、西を眺めると里山の集落や遠くに市街地が見える。



とよはしぜんほどろ

## ■ 豊橋自然歩道

弓張山地一帯に整備された自然に親しむための遊歩道で、本線の尾根道は北の中山峠から南の松明峠まで続いており、モミ群落やイヌツゲ群生林などの景観資源が点在している。また、麓の集落と本線を結ぶ支線が数多く整備されており、石巻山や葦毛湿原、赤岩寺など、自然と歴史の景観資源を楽しみながら歩くことができる。本線からは豊橋の市街地や浜名湖などを眼下に望むことができ、天候の良い時には富士山も眺めることができる。



## な

ながおいけ

## ■ 長尾池 岩崎町

葦毛湿原の入口に位置する農業用のため池。静かな水面には、東部丘陵の山並みや周辺の林が映り込んで見える。池の脇には葦毛湿原や弓張山地の稜線につながる岩崎自然歩道（豊橋自然歩道の支線）が通り、休憩所も整備され、自然の景観を楽しむことができる。



ながひこがわ

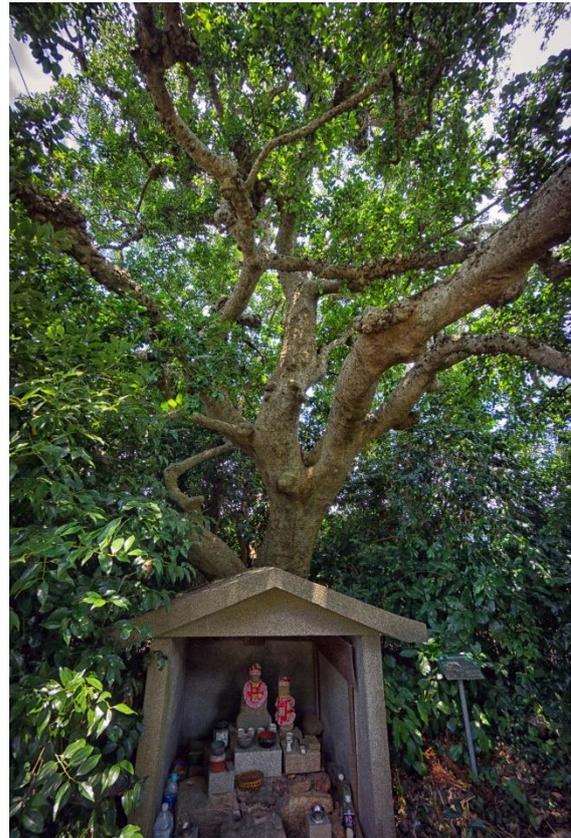
## ■ 長彦川（ホタル） 高山町

三方を山に囲まれた水田地帯に流れる小河川で、毎年6月ごろになるとゲンジボタルが飛び交う幻想的な景観を見ることができる。お彼岸の時期には、周辺の稲穂が黄金色になり、あぜに咲く真っ赤なヒガンバナとともに懐かしい里山の景観を見せてくれる。



ながら  
■ 長樂のしょうべん地蔵とクロガネモチ 石巻本町

長樂のしょうべん地蔵とクロガネモチは、長樂の集落の横にあり、地蔵は民話「しょうべん地蔵」として語り継がれ、住民に大切にまつられている。クロガネモチは、地蔵のすぐ後ろに生えており、推定樹齢は250年以上で、とよはしの巨木・名木100選に選ばれている。



ながら  
■ 長樂のヒノキ 石巻本町

長樂の集落の横にある古木で、里山の麓に広がる田園地帯に趣きのある景観を生みだしている。樹木の下部は落雷のために焼けて空洞になり、先端は枯死している。まれにみる古木で、すぐ横に「しょうべん地蔵」があり、「地蔵檜」と呼ばれて親しまれている。推定樹齢は300年以上で、市の天然記念物に指定されている。



## ひ

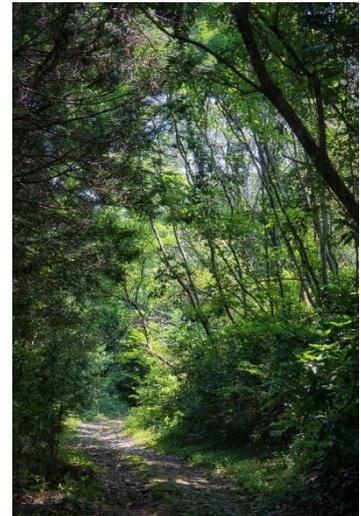
ひがしやま たいまつとうげ  
■ 東山 (松明峠)

弓張山地の尾根の南端にある標高 258mの山。山頂まで豊橋自然歩道の支線である東山自然歩道と二川自然歩道が通り、自然に親しみながら登ることができる。山頂からは、西側に豊橋の市街地や三河湾を一望でき、南側に二川のまち並みを眼下にし、南部田園地域や太平洋を遠望することができる。



ひめかいどう  
■ 姫街道

江戸時代の東海道の脇街道で、見附宿（磐田市）と御油宿（豊川市）を結んでいた。文化庁の「歴史の道百選」に選定されている。弓張山地の本坂峠から麓の嵩山宿までは、豊橋自然歩道の支線になっており、一部に石畳が敷かれ、歴史に思いを馳せるとともに、小鳥たちのさえずりを聴きながら、気持ちよく森を歩くことができる。



ひよしじんじゃ  
■ 日吉神社 石巻荻平町

創建は明らかでないが、西郷七か村の総氏神として崇敬されてきた。社殿は里山の麓の鬱蒼としたスギ林の中にあり、里地からは入口の灯笼と朱色の鳥居が見える。ここには、5つの雨乞の面があり、いずれも市指定有形文化財になっている。境内には、とよはしの巨木・名木 100 選に選定されているアベマキの大木がある。



## ふ

ふながたやま  
■ 船形山

弓張山地の南端近くにある標高 276mの山で、山頂が船底型にカーブを描いており、麓の里地からその姿がよくわかる。戦国時代には山頂に城が築かれ、今も土塁の一部が残っている。山裾には、由緒ある普門寺があり、山号は船形山（せんぎょうさん）である。



ふながたやまじょうし  
 ■ 船形山城址 雲谷町

三河と遠江の国境にある城で、船形山の山頂に築かれた。戦略上重要な拠点であったため、戦国時代にはたびたび戦いがあり、麓の普門寺も全山焼失にあっている。尾根上には豊橋自然歩道の本線が通っており、城の遺構は東西に分かれて分布している。



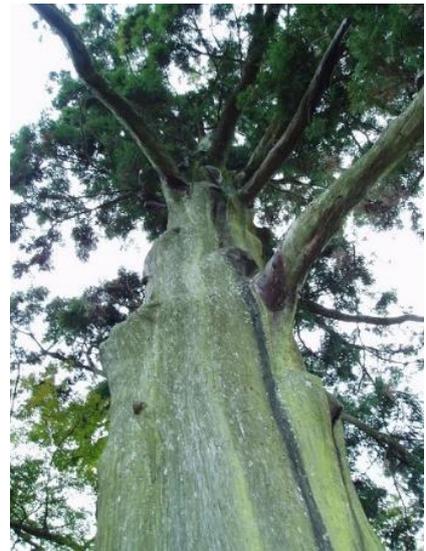
ふもんじ  
 ■ 普門寺 雲谷町

船形山普門寺は、高野山真言宗の寺院で、奈良時代の神亀4年(727)に行基が開山したと伝わっている。国の重要文化財の釈迦如来坐像をはじめ、多数の文化財が所蔵されている。山深い境内には、仁王門や鐘楼門、本堂などの歴史ある建造物が静かに佇み、春は桜、初夏はアジサイ、秋は紅葉と四季折々の美しい景観が見られる。



ふもんじ おお  
 ■ 普門寺の大スギ 雲谷町

普門寺の本堂前にある大木で、長い石段の先に空に向かって真直ぐに生えている姿が見える。豊橋で最も大きなスギで、幹周りは588cm、樹高28.1m、推定樹齢400年以上である。市の天然記念物に指定されており、とよはしの巨木・名木100選にも選ばれている。



## ま

まごしながひつかこふんぐん  
 ■ 馬越長火塚古墳群 石巻本町

広大な柿畑の中にある市内最大の古墳で、横穴式石室を持つ前方後円墳である。石室の構造や副葬品などからみて、東海地方を代表する首長の墓で、6世紀末に築造されたと考えられている。出土品は国の重要文化財に指定され、周辺の二つの古墳とあわせ、「馬越長火塚古墳群」として国の史跡に指定されている。周辺は県内有数の古墳地帯である。



まんぶくじ  
■ **萬福寺** 嵩山町

臨済宗妙心寺派の寺院で、創建は貞和3年（1347）と伝えられている。本堂脇の阿弥陀堂に、平安時代末から鎌倉時代初頭の作と推定されている阿弥陀如来坐像が安置されており、県の有形文化財に指定されている。境内には、萬福寺古墳がある。



まんぶくじこふん  
■ **萬福寺古墳** 嵩山町

萬福寺の境内の緩斜面にある古墳で、市の史跡に指定されている。直径12mの円墳で、主体部は奥行が8.3m以上の横穴式石室になっている。6世紀中ごろの築造と考えられ、被葬者は、出土品の内容からムラの有力者と推定されている。



## み

みつくちいけ  
■ **三ツ口池** 石巻町

石巻山の南側の山間にある調整池で、元々はため池であったが、豊川用水事業により貯水量24.3万m<sup>3</sup>の施設に整備された。三方を山に囲われ、北側には石巻山の山頂部の岩頭が見える。冬にはカモ類などが飛来し、周辺ではタカ類の飛翔を見ることができるなど、一年を通じて様々な鳥類が観察できる。



みやにしこふん  
■ **宮西古墳** 石巻本町

東西の直径約12m、高さ約2mの円墳で、内部には横穴式石室と呼ばれる石積みの棺をおく部屋が造られており、市の史跡に指定されている。発掘調査で、勾玉などの装身具、大刀などの鉄製品が出土している。付近には十数基の古墳が集中しており、馬越北山古墳群を形成している。



## も

もみぐんらく  
■ **モミ群落**

弓張山地の中山峠周辺にあるモミの群落で、豊橋自然歩道沿いに樹高20mものモミが見られる。このような標高の低いところに群落が見られるのは大変珍しい。とよはしの巨木・名木100選に選ばれている。



## り

りひょういけこうえん  
 ■ 利兵池公園 岩田町

農業用のため池である利兵池を中心に整備された公園で、約 0.8ha の広さがある。この一帯は、17 世紀に新田開発が行われ、利兵池の名前は、ため池を造った開発者の名をとって命名されたという。水辺には散策路が整備され、東部丘陵の山並みを背景にし、水と緑の潤いある景観を眺めることができる。



## わ

わちが やじょうし  
 ■ 月ヶ谷城址 嵩山町

豊橋の北部方面で勢力を誇った西郷氏の城の一つで、城址は正宗寺の南西にあり、曲輪、堀、土塁などの遺構が確認できる。北につながる尾根は、西郷氏の本城である五本松城（石巻中山町）に通じている。



われいわ ふじみいわ  
 ■ 割岩（富士見岩）

愛知県と静岡県の間にある豊橋自然歩道の本線上にある大きな岩で、割れ目がある。ハイキングの休憩場所には最適で、眼下に浜名湖のすばらしい眺めが得られ、天気の良い日には、遠く富士山や南アルプスも見える。





## B. 豊川沿川周辺

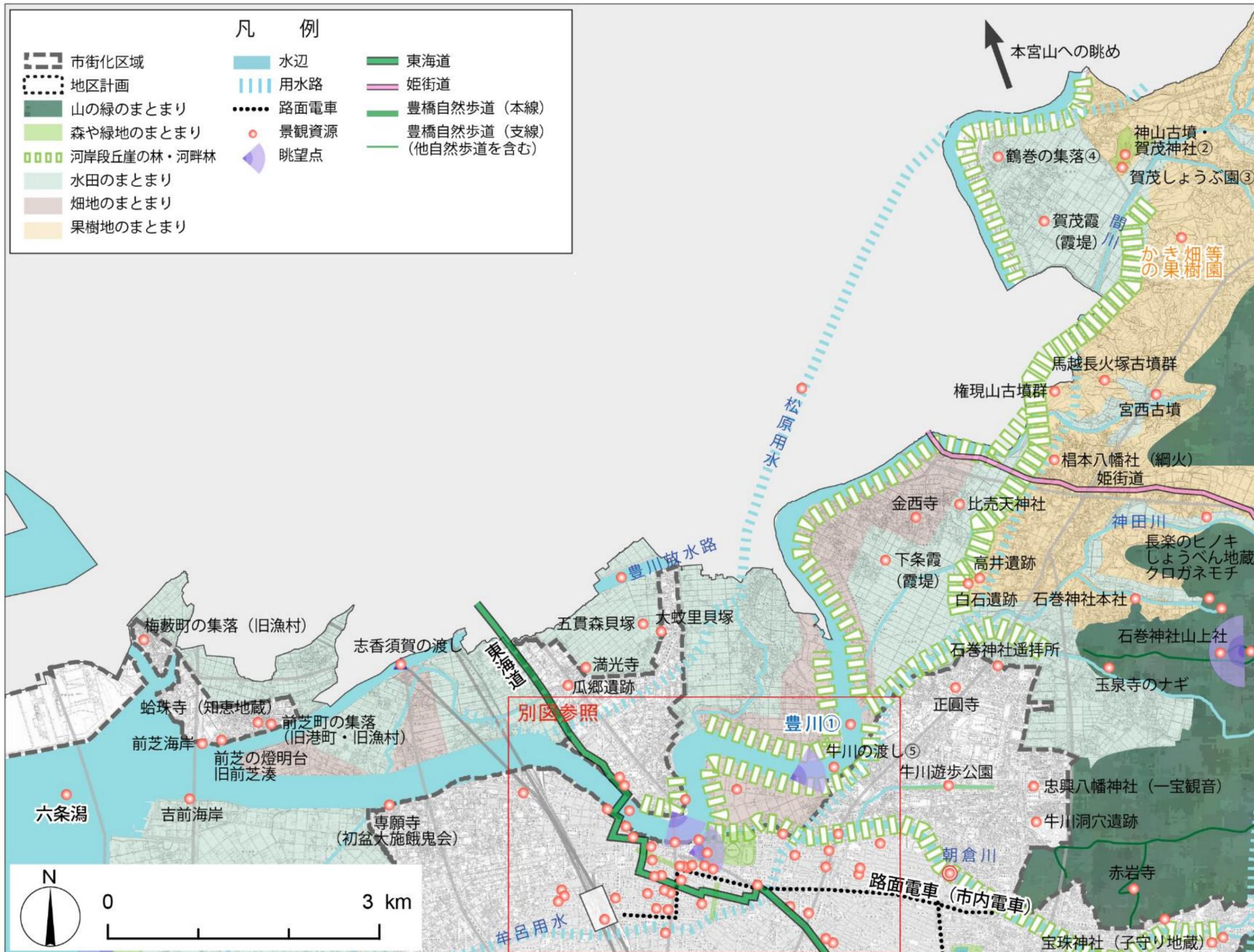
この地域は、清らかに水をたたえて流れる豊川と、これに沿って広がる水田などの田園により形成されています。東部丘陵や本宮山の山並みが、地域の背景になっています。

豊川は全国屈指の清流で、中心市街地にある吉田城址の横をゆったりと蛇行し、まちに潤いをもたらしながら三河湾へ流れています。吉田城址より上流部は河畔林に覆われており、沿川の田園景観の緑の背景となっています。また、江戸時代に治水のために設けられた霞堤と呼ばれる不連続な堤防が見られます。



豊川沿いに広がる田園と落ち着いた集落（下条西町付近）

B 豊川沿川周辺



## う

■ うしかわ わた 牛川の渡し 牛川町、大村町

一級河川豊川の両岸を結ぶ渡し船として昭和7年（1932）から豊橋市営として運航しており、市道の一部になっている。豊川の渡しは、平安時代からあったと言われており、今も通勤、通学のために市民に利用されている。船頭が長い竿で船を操る懐かしい景観が見られる。



## か

■ かすみでい 霞堤 牛川町、下条東町、下条西町、賀茂町 他

霞堤は、堤防の一部分に切れ目をつくり、増水時に水を遊水地に導くことで下流部の洪水被害を軽減するものである。戦国時代から長い年月をかけて造られたと推定されている。昭和30年代には9か所の霞堤があったが、豊川放水路の完成後、右岸側の5か所が締め切れ、現在は、左岸側に牛川、下条、賀茂、金沢の4か所の霞堤が残っている。

■ かみやま こふん 神山古墳 賀茂町

賀茂神社の境内にある古墳で、静かな林の中に直径28mの円墳がほぼ完全な形で保存されている。6世紀前後に造られた地方の豪族の墓と考えられており、市の史跡に指定されている。

■ かち えん 賀茂しょうぶ園 賀茂町

賀茂神社の参道入口にあるしょうぶ園で、約300種、3万7千株のしょうぶが植えられている。毎年5月から6月にかけて花しょうぶまつりが開催され、夜のライトアップも行われる。



か も じんじゃ あおいまつり  
■ 賀茂神社（葵祭） 賀茂町

天平元年（729）に京都の賀茂別雷神社より勧請して創建されたといわれ、本殿は県の有形文化財に指定されている。境内は「ふるさと文化財の森（文化財建造物の修理に必要な資材のモデル供給林及び研修林）」に設定されたヒノキ林に包まれており、市史跡の神山古墳がある。毎年4月には、葵祭りと呼ばれる大祭が行われる。



こ

ご かんもりかいづか  
■ 五貫森貝塚 大村町

縄文晩期後半から弥生前期にかけての遺跡。現在は遺跡の面影をとどめていないが、貝塚は、豊川に生息していたヤマトシジミを主に、ハマグリやカキなどの海水産の貝で構成されていた。縄文土器や石器、土偶なども出土している。



こんさいじ  
■ 金西寺 下条東町

前身は正法寺といい、創建は明応2年（1493）、再興改修が元和5年（1619）と伝えられている。寛永年間に金西寺と改めた。本尊の千体地藏菩薩像は、室町時代の作といわれている。



し

しかすがわた  
■ 志香須賀の渡し

かつて豊川の河口付近は幅が4kmほどあり、平安時代には、川を渡す「志香須賀の渡し」があった。渡しの場所は1か所ではなく、川の流れの変化や中洲の発達によって様々に変わっていったようである。

しもじりよくち こんじきしま  
■ 下地緑地（金色島） 下地町

豊川右岸の蛇行部に土砂が堆積して陸地状になった場所で、島の名称がついているが陸続きである。中央部にはこんもりとした森があり、対岸の豊橋公園の緑や遠くの東部丘陵の緑とともに、豊かな水と緑の景観を保っている。干潮時には砂浜が現れ、汽水域の貝類や甲殻類を見ることができる。



## つ

■ つるまき しゅうらく 鶴巻の集落 賀茂町

賀茂町の豊川沿いにある集落で、屋敷を背の高いイヌマキが取り囲んでおり、集落の道に入ると迷路のような独特の景観が見られる。イヌマキの生垣は、本宮山から吹きおろる強風から家屋を守ることや、洪水時の家財流出を防ぐために植えられたと言われている。集落内には、武田信玄の軍師となった山本勘助の生誕の碑がある。



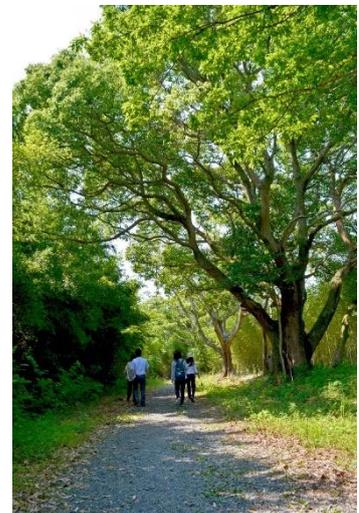
## と

■ とよがわ 豊川

奥三河を源流とし、東三河を蛇行しながら三河湾に注ぐ一級河川。戦国時代から、豊川下流域の洪水の被害を最小限におさえるため、流域に霞堤が築かれた。吉田大橋より上流は、河畔林が茂る豊かな自然景観が見られる。平成 15 年(2003)の全国一級河川の水質測定結果では、全国 5 河川と並び、最上級(第 1 位)にランクされた。

■ とよがわ かはんりん 豊川の河畔林

豊川の河川敷や堤防には、エノキ、ムクノキ、タブノキなどが茂り、豊かな緑が川の流れを包み込んでいる。河畔林には、キツネやタヌキ、イタチなどの哺乳類をはじめ、数多くの鳥類や昆虫類が生息し、生き物たちの移動経路にもなっている。牛川の渡しの下流部には、牛川遊歩道が整備され、鳥たちのさえずりを聴きながら河畔林のなかを心地よく散歩できる。

■ とよがわほうすいろ 豊川放水路

豊川下流部を洪水から守るために造られた延長約 6.6km の水路で、昭和 40 年(1965)に完成した。コンクリート河床の上の土砂にヨシなどが茂り、冬には多くのカモ類が集まる。



## ひ

ひ め てんじんしゃ  
■ **比売天神社** 下条東町

豊川沿いの水田地帯の集落にある神社で、社宝に雨乞面を所蔵している。雨乞面は、女面が1つ、祭礼用面が4つ、合計5面あり、いずれも市の有形文化財に指定されている。



■ **広がる水田** 下条東町・下条西町

豊川左岸の低地に、河岸段丘の斜面緑地に縁取られた水田地帯が広がっている。遠くには東部丘陵の山並みとシンボリックな石巻山の姿があり、ふるさとも感じる穏やかな眺めが得られる。稲穂が黄金色に染まるころは、特に美しい景色になる。



## ほ

ほんがんじ  
■ **本願寺** 賀茂町

鶴巻の集落にある曹洞宗の寺院で、創立は不明であるが、もとは天台宗の古刹であったといわれている。墓地内には、武田信玄の軍師となった山本勘助の父母の碑と称する墓がある。寺の近くには、山本勘助生誕の碑がある。



ほんぐうさん なが  
■ **本宮山の眺め**

本宮山は、豊川市、新城市、岡崎市にまたがる標高789mの山で、豊橋市の市街地からも眺められる。その大きな山並みは、豊橋のまちの背景になっており、市民の暮らしに落ち着きをもたらしている。



## ま

### ■ まつばらようすい 松原用水

豊川右岸の水田をかんがいする農業用水で、新城市の牟呂松原頭首工で豊川から取水している。取水した水は、豊橋市の賀茂町で牟呂用水と松原用水に分かれ、松原用水は、豊川をサイホンで潜り、豊川の右岸に出て約 12km 流れている。平成 29 年（2017）に、世界かんがい施設遺産に松原用水・牟呂用水が登録された。



## C. 三河湾沿岸周辺

---

この地域は、三河湾の埋め立てによりつくられた港のある工業地帯と、神野新田の広がりある水田地帯により形成されています。

河口部の水辺には、一年を通して渡り鳥が訪れる豊かな生態系のある汐川干潟や六条潟が広がっており、三河湾に面して緑豊かな総合スポーツ公園が整備されています。また、護岸観音（三十三観音）などの歴史資源も見られます。



産業道路が交差する三河港周辺

C 三河湾沿岸周辺

C 三河湾沿岸周辺



## あ

あけみ かんしゅうりよくち  
■ **明海緩衝緑地** 明海町

三河湾沿岸の埋立てにより明海地区の臨海工業地帯が造成された際に、陸地との緩衝帯として設けられた緑地。工業地帯の東側に通る幹線道路に沿って、中高木の木々が生き茂る緑地帯が約4Kmに亘って繋がっている。



あけみ ちく りんかいこうじょうちたい  
■ **明海地区（臨海工場地帯）** 明海町

三河港に隣接する広大な工業地帯で、三河湾沿岸の埋立てにより造成された。工業専用地域に指定されており、自動車関係の企業をはじめ、製造、物流など、様々な業種の大型企業が立地している。地区内には、企業専用の岸壁が整備され、大型船が接岸する景色も見られる。



## う

うめやぶちよう しゅうらく きゅうぎよそんしゅうらく  
■ **梅敷町の集落（旧漁村集落）** 梅敷町

かつて三河湾の漁業で栄えた漁村集落。それぞれの宅地には、敷地の北側に大屋根の母屋が、東側に離れや作業小屋があり、それらが整然と建ち並び、美しい屋根並みが見られる。昭和40年代初めまでは漁村として栄え、現在は、路地に建ち並ぶ家々や歴史ある社寺が、往時の面影を伝えている。



## お

おおにしかいづか  
■ **大西貝塚** 牟呂大西町

縄文時代晩期の東海地方最大の貝塚で、かつての三河湾海浜部に立地している。石器や骨角器などの日常生活の遺物が少なく、居住地も発見されていないことなどから、干し貝を専門につくる加工場であったと考えられている。現在はほとんどが宅地になっており、墓地のところに貝殻が露出している。



## き

■ 旧前芝湊 きゅうまえしばみなと 前芝町

豊川河口部右岸の前芝村にあった湊。江戸時代には、江戸方面などへの廻船も出入りし、川岸には廻船問屋や年貢納入米の倉庫があった。また、豊川上流や信州方面の物資も豊川を下り荷揚げされ、各地に送り出されていた。伊勢参宮の渡船もかなり出ていたようである。



## け

■ 傾城塚 けいせいづか 杉山町

杉山町字天津に祀られた小さな五輪塔。かつて、この地の新田開発のために堤防締切りをしたが失敗続きであった。1人の遊女（傾城ともいう）が堤防を締め切るために、自ら人柱になったところ、たちまちにして堤防の締切りに成功したことから、遊女を弔うために塚が築かれたという。



## こ

■ 護岸海岸（三十三観音） ごがんかいがん さんじゅうさんかんのん 神野新田町

神野新田の干拓のためにつくられた防波堤にある観音像で、新田を見守るように静かに佇んでいる。大日如来を起点として33体の観音が100間おきに安置されている。住民が安全祈願のために巡回し、堤防の破損を早期に発見することも考えられたという。



## し

■ 汐川干潟 しおかわ ひがた

三河湾の最深部に広がる約280haの干潟で、全国有数の渡り鳥の飛来地である。年間を通じて水鳥が観察でき、春と秋はシギ・チドリが、冬はカモ類が集まる。豊橋市と田原市にまたがっており、豊橋側からは、田原市の蔵王山を背景にした広がりある自然景観が見られる。



じんの しんでんとう すいでん  
■ 神野新田等の水田 神野新田町他

三河湾沿岸の干拓によってつくられた新田で、水平に広がる田園景観が見られる。災害などによる幾多の困難を乗り越えて整備された。当時の防波堤は人造石工法で築かれ、新田全体は明治 29 年（1896）に竣工した。



す

すぎやまちょうあまづ しゅうらく きゅうぎよそんしゅうらく  
■ 杉山町天津の集落（旧漁村集落） 杉山町

三河湾に流れ込む紙田川の河口付近にある集落で、漁村であったころの面影を残している。昭和 40 年代初めまで、遠浅の海で海苔の養殖などが盛んに行われ、集落の近くには船かけと呼ばれる小さな港があった。現在でも、迷路のような路地に沿って家々が建ち並んでいる。



と

とよはし  
■ 豊橋コンテナターミナル 神野西町

三河港にあるコンテナ輸送の港湾基地で、平成 10 年（1998）に神野ふ頭 7 号岸壁で共用を開始し、その後、平成 20 年（2008）に第 8 号岸壁に 2 基目のガントリークレーンを増設し稼働している。外国貿易の定期航路として、韓国航路や中国・ベトナム航路が就航している。大型船にコンテナを積み卸すダイナミックな様子が見られる。



とよはしそうごう こうえん  
■ 豊橋総合スポーツ公園 神野新田町

豊橋市のスポーツ活動の拠点に位置づけられた公園で、三河湾の臨海部にある。緑に包まれた広大な敷地には、総合体育館をはじめ、サッカー場、野球場、アクアリーナ豊橋（屋内プール・アイスアリーナ）などが整備されている。芝生広場や遊水地を望む緑地も整備され、市民の憩いの空間になっている。



## ほ

## ■ ポートインフォメーションセンター 神野ふ頭町

三河港の役割や魅力を紹介する体験型の展示施設で、「日本一の自動車港湾・三河港を知る・学ぶ・楽しむ」を展示テーマにしている。高さ約 30mの展望室からは三河港を一望でき、巨大な自動車運搬船や三河湾に沈む夕日を眺めることができる。



## ま

## ■ 前芝海岸 前芝町

豊川河口右岸にある三河湾沿岸の海岸で、六条潟につながる干潟が広がっている。干潟にはアサリなどの二枚貝が生息するなど、様々な生き物が観察できる。冬には内湾を好むカモ類が数多く見られる。



## ■ 前芝町の集落（旧湊町・旧漁村集落） 前芝町

豊川河口部にある集落で、江戸時代に前芝湊のある湊町として栄えた。昭和 40 年代初めまでは、海藻養殖やアサリ採取が盛んな漁村としても栄えていた。現在は、生業としての漁業は見られなくなったが、路地に建ち並ぶ家々や歴史ある社寺が、往時の面影を残している。



## ■ 前芝の燈明台 前芝町

豊川河口部右岸にある燈明台で、海上航行の安全と吉田湊・前芝湊の指針として、寛文 9 年（1669）に吉田藩が建設した。前芝村の村民により毎夜点灯され、災害で幾度も損壊したが、その都度藩により修復されてきた。現在のものは昭和 41 年（1966）に復元されたもので、愛知県の史跡に指定されている。



## み

み かわこう

### ■ 三河港

豊橋市、田原市、蒲郡市、豊川市にわたる港湾で、昭和 39 年（1964）に港湾法の重要港湾に指定された。自動車貿易では、輸出入ともに世界のトップレベルの取り扱いを誇っている。三河湾の奥に位置し、半円形の形態をしており、背後地は工業用地になっており、自動車関連工場など、数多くの企業が立地している。



み かわこうおおはし

### ■ 三河港大橋 杉山町

豊橋渥美線（愛知県道 2 号）の橋で、汐川干潟の北側に架かる。昭和 57 年に完成し、延長 1780m、上下 4 車線を有し、豊橋市と田原市をつないでいる。橋上からは、遠く三河湾周辺の山並みや三河港、汐川干潟の眺めが得られる。



み かわわん

### ■ 三河湾

渥美半島と知多半島に囲まれた海で、湾の周辺は概ね三河湾国定公園に指定されている。湾内にはスナメリが生息し、豊橋市のある東側には六条潟や汐川干潟があるなど、豊かな自然環境を有している。湾の東は、三河港に指定されており、湾内には大型船が往来している。



## よ

よしぎきかいがん

### ■ 吉前海岸 吉前町

豊川河口左岸にある三河湾沿岸の海岸。堤防の海側には砂浜が広がっており、海浜植物や巻貝、カニ類を観察できる。目の前には豊かな生態系を有する六条潟と三河湾の海が広がり、美しい夕日も眺められる。

